

第1部 令和6年の概要

1. 年別発生状況

東京消防庁管内では、日常生活における事故により令和2年から令和6年までの5年間に**707,499人**が救急搬送されています。

令和6年中は、163,360人が救急搬送されており、増加傾向にあります（図1-1）。

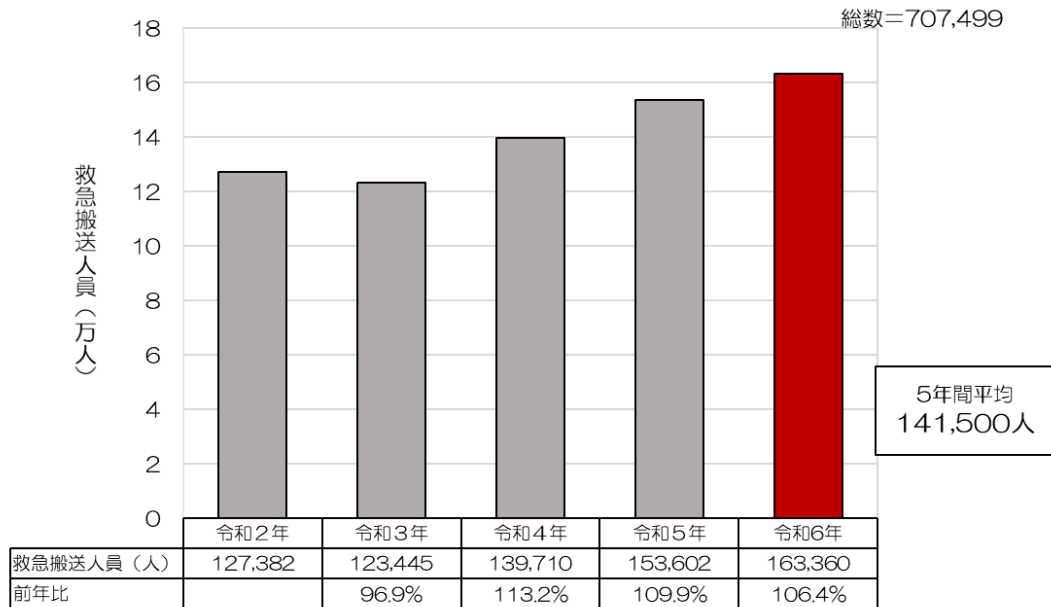


図1-1 年別の救急搬送人員

2. 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別の救急搬送人員を見ると、乳幼児と70代以上に多く発生しています（図1-2）。

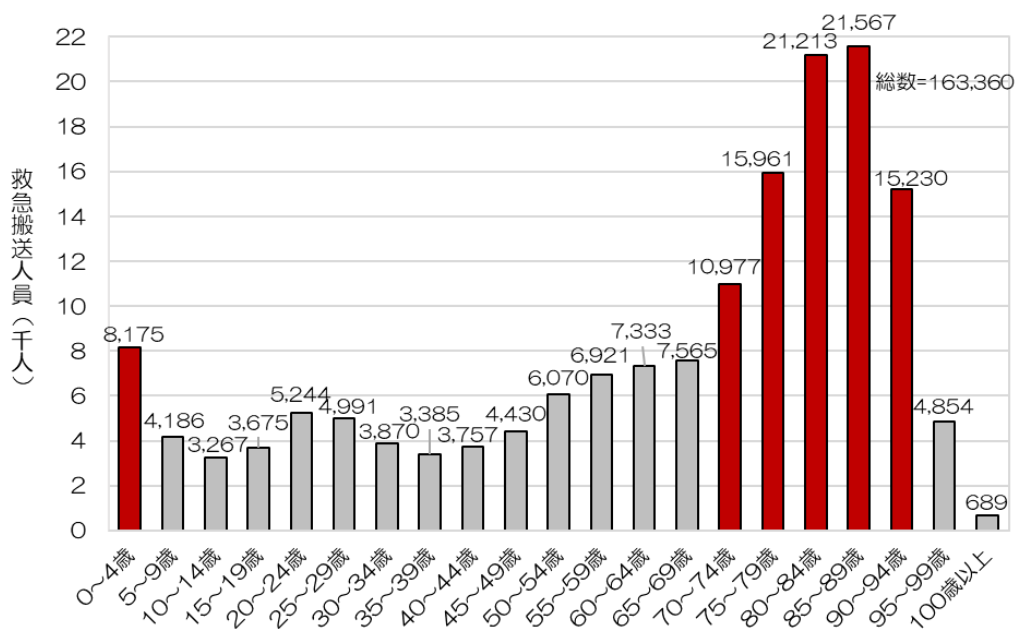


図1-2 年齢層別の救急搬送人員

3. 月別・時間帯別搬送人員

月別に見ると、7月の16,197人が最も多く、次いで12月に14,973人が救急搬送されています（図1－3）。

時間帯別で見ると、昼間の時間帯に9,000人以上が救急搬送されています（図1－4）。

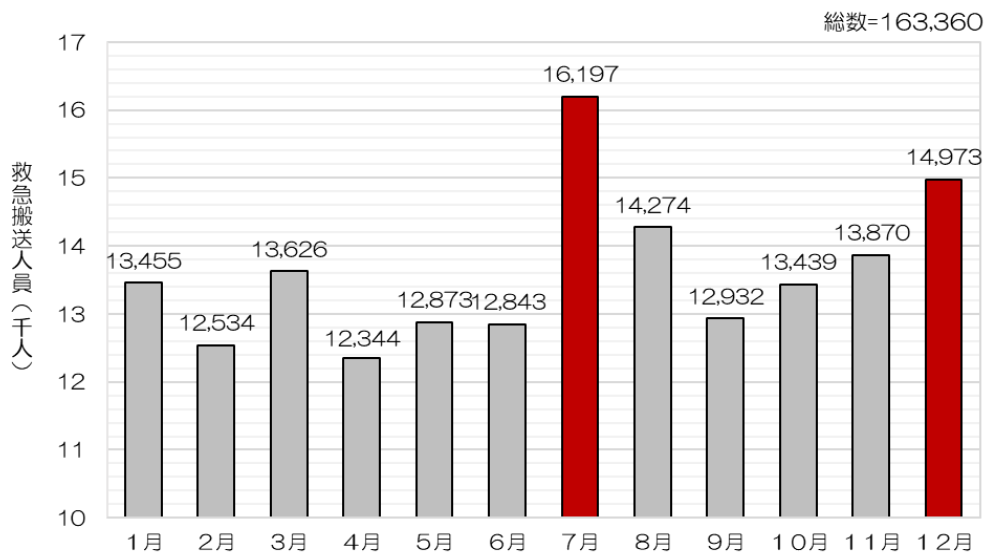


図1－3 月別の救急搬送人員

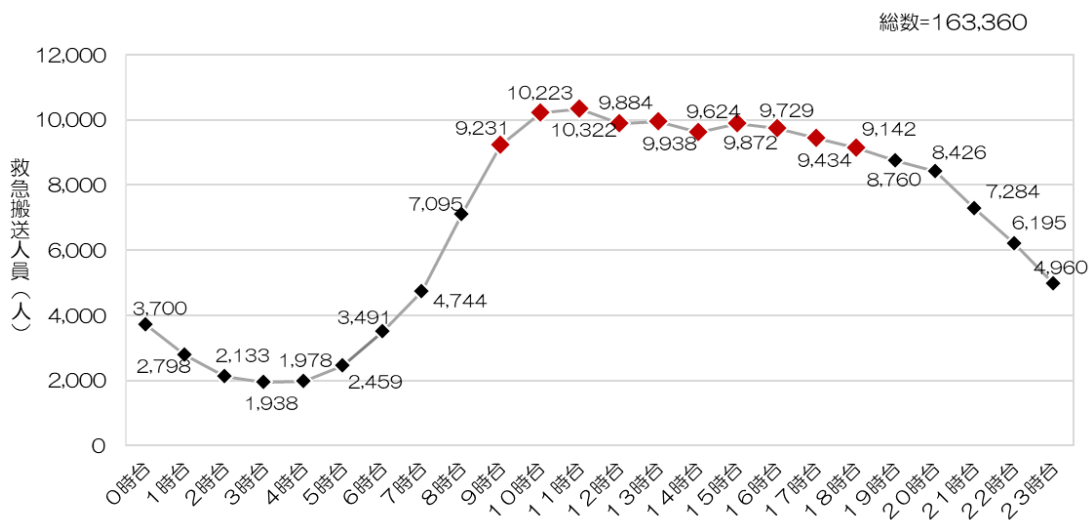


図1－4 時間帯別の救急搬送人員

4. 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」事故が全体の約6割を占め最も多くなっています。
なお、事故種別ごとの概要については第2部で取り上げています（図1－5）。

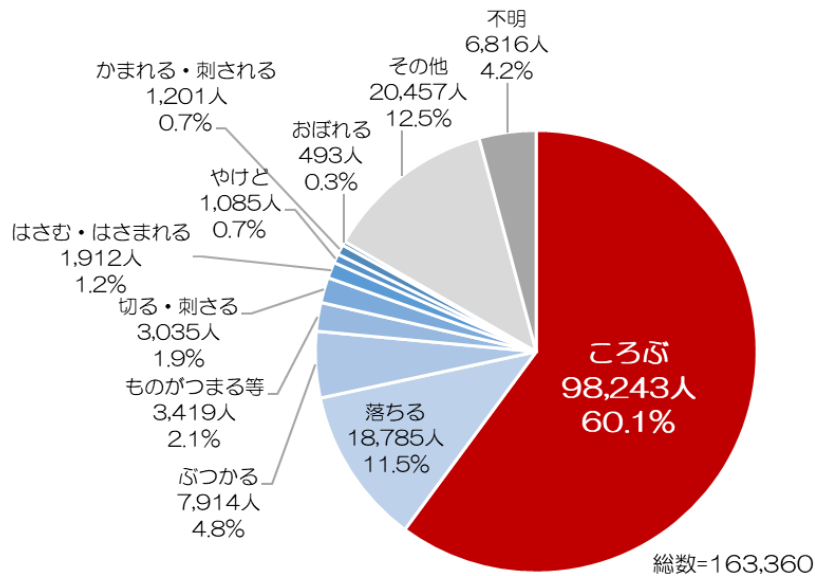


図1－5 事故種別ごとの救急搬送人員

5. 発生場所別搬送人員

半数以上が住宅等居住場所で発生しています（図1－6）。

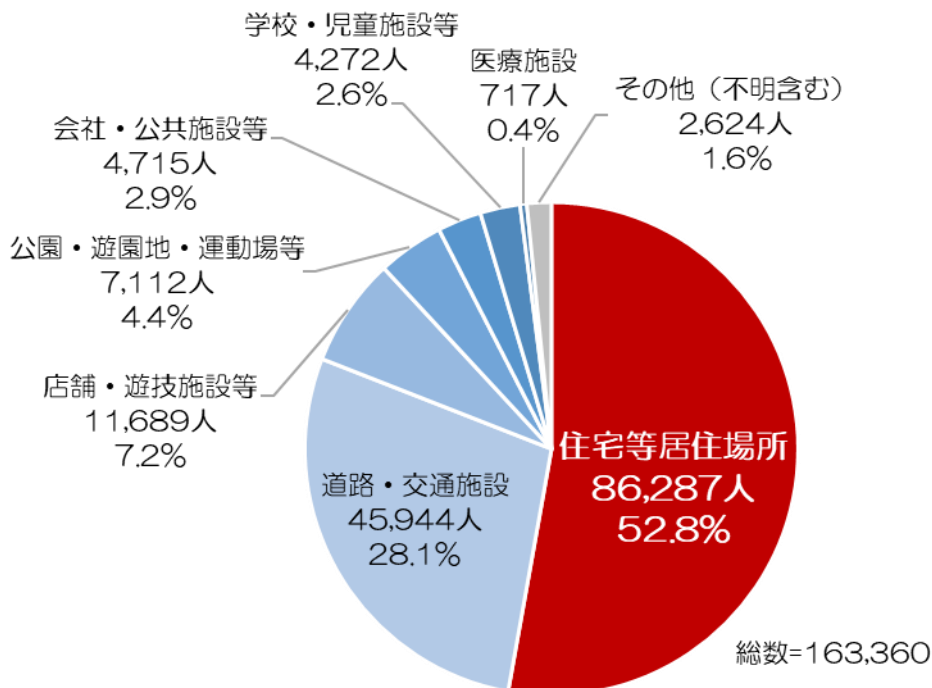


図1－6 発生場所別の救急搬送人員

6. 初診時程度別搬送人員

3割以上が入院を必要とする中等症以上で、生命に危険を及ぼすような事故も発生しています（図1－7）。

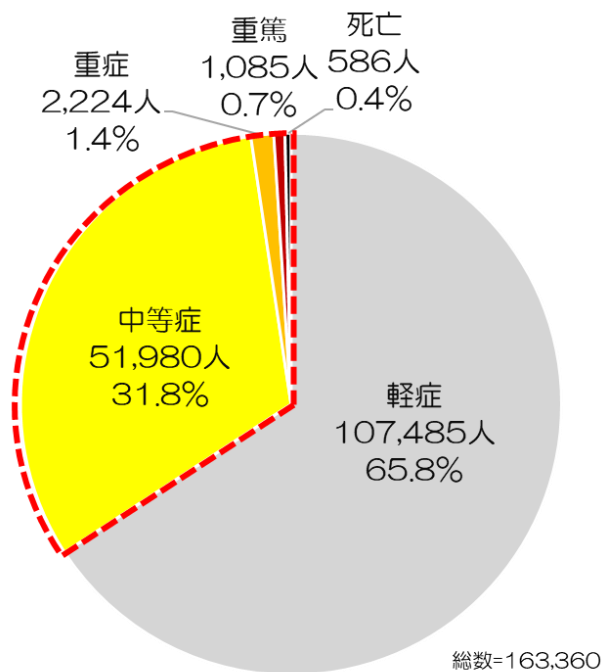


図1－7 初診時程度別の救急搬送人員